

学校教育課・生涯学習課 両課長にお聴きました。

【対談】「社会に開かれた教育課程」をいかに実現するか



生涯学習課長 青柳 信雄

学校教育課長 山口 真一

(聞き手) 主任指導主事 西澤 真一

西澤 学習指導要領の前文に、「社会に開かれた教育課程の実現が重要」と記されています。どのようなことを大切に考えていく必要があるのでしょうか。

理念を共有しともに歩む教育のあり方

山口 中央教育審議会の答申の中で、3つのことが指摘されています。① 教育理念を社会と学校が共有していくこと、② 資質・能力の育成を教育課程において明確にすること、③ 学校教育を学校内に閉じずに、地域社会と連携・協働することです。

子どもたちがこれから訪れる予測困難な時代を生きていくためには、学校教育が学校の中で閉じているのではなくて、開かれた学校が求められます。地域社会と学校の橋渡しとなるのがコミュニティ・スクールだと考えています。

青柳 ずっと山口課長にお聴きしたかったのですが、平成26年から国のコミュニティ・スクールをやっていた木島平村で、中学校の校長として当時お感じになっていたことはどのようなことですか。

山口 「あなたの学校はどういう学校ですか」と聞かれれば、小中学校の誰もが「協同的な学びでつなぐ一貫教育の学校です+コミュニティ・スクールを推進する学校です」と答えていました。地域の人に助けってもらったり、地域に貢献したり、ともに歩む学校教育だと感じていました。

青柳 学校・地域社会が連携・協働し、なおかつ教育理念を

共有できるようにすることが大切なのですね。社会教育という側から、「自分たちも子どもを育てるんだ」「子どもたちに必要な力は何なのだろう?」「学校と地域社会が理念を共有して、共に育んでいくんだ」とするために、私も地域社会の当事者意識を高める必要があると考えます。

学校と地域社会がもっとコミュニケーションをとって、学校の教育課程を地域社会が理解して、子どもを育てていかななくてはいけない時代になったのだと思います。だからこそ、地域社会の方に当事者意識を高めてもらうような働きかけをしていかななくてはならないと考えます。そのための手立てが、コミュニティ・スクールの仕組みだと期待しています。

西澤 これから、中信教育事務所としてどのような支援が考えられるのか、お聴きできればと思います。

青柳 山口課長が最初に話された3つのことを具体的に支援していくことです。

例えば大桑村では、「大桑村の明日を語る集い」を20年以上やっています。平成26年からは小中学生も参加して、地域の方と「こんな役場の新庁舎がほしい」、「災害の時にどうする」等、話し合っています。要するに、大桑村の村づくりに子どもが社会教育の枠の中で参加しているのです。

大桑村の子どもたちは、その中で刺激を受けたり、大人の考えを聞いたりしています。さらに、学校と地域社会が理念を共有したり、どのような資質・能力をつけたいのかを話し合ったりして、学校の教育課程とつながっていく支援をしていくことで、さらに連携・協働が進んでいくと思います。



青柳 信雄
Nobuo Aoyagi

塩尻市の木曾榎川小学校、榎川中学校では、「ふるさとを学び・知り、誇りと愛情を持ち、地域の未来を拓き、語れる子」という願いを地域と共有しました。そして、木曾漆器祭・奈良井宿場祭のときに子どもたちがカフェを開

いて来訪者におもてなしをしたり、「定住しませんか、移住してきませんか」というチラシを配ったりしました。このチラシを見て、この夏に居住してくれた人がいたのです。

つまり、子どもたちの働きかけに対して、地域社会や来訪者が応えてくれたことで、子どもたちは、自己肯定感を高め、今後地域社会のために「もっと〇〇したい」となっていくことと思います。このような積み重ねが、社会に開かれた教育課程になっていくと考えます。

西澤 社会とつながる接点で、学校がどのように参加できるのか考えていこうとすることが大事だということですね。

青柳 その大前提が、最初に山口課長がおっしゃった理念を、目標やビジョンも含みますが、共有していくことです。それがないと一方通行になる。「学校支援をすればいいでしょ」「学校のお手伝いをすればいいでしょ」ということになってしまいます。そうではなくて、理念を共有することによって、ともに歩んでいくことになります。学校支援だけじゃなく、一緒にやる、そうありがたいですね。

山口 ちょうど例に出た木島平村では、「自立する学び手」が教育理念として共有化されていました。そして、そのための「教育課程をどうしましょう」ということまで地域社会と共有していった。まさに地域とともにある学校になっていきました。

社会に開かれた教育課程の実現には、「連携」と「協働」が大事だと考えます。「連携」は、教育理念を社会と学校が共有化して、目標を共有化するということですね。「協働」は、内外リソースを活用していく、内と外の教育資源をより一層活用していくことが社会に開かれた教育課程を実現させていきます。このように、「チーム学校」として教職員に加えて多様な背景を有する人材を学校の中に巻き込んで、教育力、組織力を高めていくという視点が大切です。

学校教育課としては、来年度、カリマネ（カリキュラム・マネジメント）の側面から、学校を支援できないかと考えています。

カリマネを整理すると、1つめは、教科横断的な視点でマネジメントすること。2つめは、評価・改善するPDCAサイクル、3つめが、内外リソースの活用。キーワードは、田村学元視学官も言っていますが、「つなぐ」。体験と言葉をつなぐ、教科をつなぐ、暮らしとつなぐ、人とつなぐなど。

ですから、教科横断的な視点で、学校のお手伝いをしたいと思っています。また、PDCAサイクルの側面から、「あなたの学校の実施状況はどうですか？」「評価改善していますか？」、ということも、教科の窓口でもいい、教育活動全般でもいい、どの場面でもそうやって語っていくことで「つなぐ」ことができると思います。



山口 真一
Shinichi Yamaguchi

■ 連携・協働し「一带一学 2019」へ

青柳 生涯学習課としては理念を共有するとはどういうことか、学校と地域社会が連携・協働するとはどういうことか、先進事例を紹介しながら、社会に開かれた教育課程が実現することで「子どもが育つんですよ」ということを、伝えていきたいと考えます。さらに、子どもが育つには、様々な大人との関わりが必要だと思うので、是非社会教育、生涯学習に関わる人のみならず学校教育及び学校とさらに連携してお力添えいただいで、社会に開かれた教育課程の実現を目指していきたいです。

山口 最後にお伝えしたいことは、社会に開かれた教育課程は、子どもに開かれた教育課程の実現であるということです。

今年度「一带一学」を展開してきたわけですけども、来年度はいよいよ学校教育課と生涯学習課と連携・協働して「一带一学」を進めていこうと思います。そのことが、まさしく社会に開かれた教育課程の実現に向かっていくのかな。

(平成31年2月28日 中信教育事務所にて)



一帯一学

略称はOBOL (One Belt, One Learn)

学校教育課 平成 30 年度 グランドデザインより

すべては子どもたちのために『共に歩まん』

～わたしたちは、「資質・能力の育成」につながる日々の授業改善への取組を支援します～

学校訪問

◇教材研究を中心とした継続的な支援

- ・子どもを主語とした授業づくりの実現に向けた学校訪問の実施。
- ・単元訪問を核に、内容や時間のまとまりを見通した継続的な支援の実施。



教職員研修

◇教師力を磨く研修内容の工夫

- ・市町村教委や校長会と連携しながら各ゾーンで研究主任会や授業力アップ講座を実施。
- ・全国学調分析研修



情報提供

◇事務所だより「共に歩まん」の充実

- ・連載『「一帯一学」への扉』で、新学習指導要領の趣旨等を、授業の具体的な姿とつなげタイムリーな情報発信。



学校訪問

○アンケートの記述欄の多くに「子どもを主語とする教材研究のよさ」が具体的に示された。「子どもを真ん中にした教材研究」を視点にした授業づくりの大切さが確実に広がっている。

●さらに、他教科や学校全体に広げられるよう、学校訪問支援をコーディネートできるようにする。

教職員研修

○各ゾーンで開催することで、参加しやすくニーズに合わせた実施とした。

●さらに、参加者同士の交流を図るようにする。

情報提供

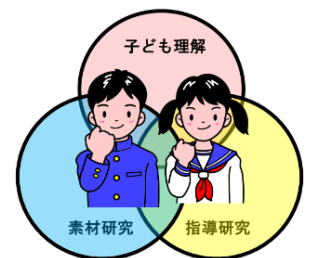
○中信管内の授業の生の姿から、資質・能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実際を発信した。

●さらに、双方向の発信になるようにする。

○ 成果 ● 課題

学校訪問アンケート集計結果から

- ・自校の願いや課題に合った支援内容であった。
はい 96.2%
- ・自校研究の「よさ」や新たな「課題」を明確にする支援内容であった。
はい 95.6%
- ・資質・能力の育成に向けて、「子どもを真ん中にした教材研究」を大切に授業づくりへの意識が高まった。
はい 92.2%



一帯一学～この道は続く 2019～

◎学校訪問支援に関わって…カリキュラム・マネジメントの側面から学校づくりを支援。中学校区や同じ課題をもつ複数の教員や学校をつなぐ支援。

◎教職員研修に関わって…学び続ける教師を支える、「出向く」研修の継続充実。

◎情報提供に関わって…先生方の振り返りに役立つ双方向の情報提供。



本年度の振り返りと来年度に向けて(生涯学習課)

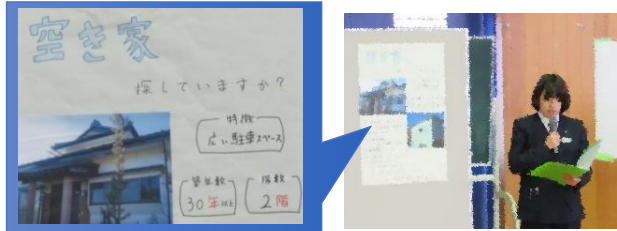
地域とともにある学校づくり～コミュニティスクール～

本年度、多くの地域・学校で取組の充実に向けて推進していただきました。

①子どもは地域で育てると意識の高まり



②故郷への愛着につながる学びへ



③思いを共有する場が各地で設けられてきている



今後について

- ・さらなる信州型CSの取組充実を目指し情報提供
 - ・国CS設置努力義務化へ向けた情報提供等の支援
- ～来年度も、信州型CS推進出張講座等、学校と地域の研修の場に御活用ください～

地域と学校をつなぎ、地域ぐるみの学び合いを

◇人権教育実践力スキルアップ講座

- ☆まずは自分が「自分事として体験的に学ぶ」
- ☆地域や学校で「実践に生かしていける」
- ☆地域と学校の担当者どうしが「お互いにつながり合い連携・協働に向かう」

以上のことを大切に、来年度もワークショップや現地研修など、様々な切り口から研修内容を考えて参ります。多くの先生方の御参加をお願いします。



(松本市里山辺地下軍事工場跡にて)

身近にあるものを生かして、地域の人々とつながりながら、生徒たちに戦争の悲惨さ、人権の大切さを伝えていくための学習を具体的に思い描くことができました。

(「現地研修を通して、『外国人の人権』や戦争と平和について考える」 受講者の方の感想より)

体育・スポーツ活動の充実をめざして

本年度は、「スポーツ文化活動運営委員会での情報提供」や「人間関係づくりの講座」、「体力向上に向けた運動指導」等を実施しました。来年度も先生方のご要望に応じて対応させていただきます。

お気軽にご連絡ください。

◇中学生期のスポーツ活動の支援

改訂版の長野県中学生期のスポーツ活動指針の説明や今後のスポーツ活動のあり方等についての情報提供をさせていただきます！



◇出張講座「教職員のためのスキルアップ講座」

放課後の数十分や長期休業を活用して！

「体づくり運動」や「教材研究」、「ニュースポーツの紹介」等をさせていただきます。職員研修や学年会等でご活用ください！



(要望に応じて柔軟に対応しますので、お気軽にご連絡ください)

「一帯一学」の 根ざし処

学校人権教育連絡協議会 特集

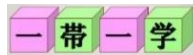
人権教育は、全ての教育の基本だね。

今年も小・中・高いずれの学校でも、

【人権教育の視点】を大切に授業が日々積み重ねられているよ！



これからも教育活動を通して
「**自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動**」
をとることができる資質・能力を
育んでいこうね。



道徳

「あいてのことを考えて」（小2）

教材名 「まいごのすず」 学研 『みんなのどうとく』

内容項目 B 親切, 思いやり

小谷小

春原 園子 先生

【人権教育の視点】他者の痛みや感情を共感的に

受容できるための想像力や感受性を高める。



本時の中心の「まいごのすず」を全てのペアが持ち、それを主人公が持った場面を役割演技。「まいごのすず」の重みや音色から落とし主の痛みや感情を想像するとともに、「まいごのすず」も持ち主の元へ帰りたいのだと感じました。

体育

「自分たちのダンスをつくろう」

～協力して楽しくたのびってダンサーズ～（小4）

穂高南小

朝倉 明日香 先生

【人権教育の視点】能動的な傾聴、適切な自己

表現等を可能とするコミュニケーション技能を高める。



「仲間に聞いたり確認したりしながらみんなが楽しめるダンスをつくろう」とめあてを確認した児童たち。グループ追究では、仲間の動きのよさを認めると、「見本を見せて」「もう1回やってみてよ」と伝え合い、見事なダンサーズへ！

総合

「すべての人の人権が守られる

避難所を提案しよう」（高1）

松商学園

高山 佳子 先生

【人権教育の視点】人権の観点から自己自身の

行為に責任を追う意志や態度を高める。



校内のバリアフリーの必要を提案し、実際に段差解消のスロープが設置された経験をする生徒たち。校内に避難所が設置された時の空間の使い方を問ううちに、高齢者は若い自分たちが背負う」と、生き方を語り始めました。

特活

学級活動 (2)

「みんなが気持ちよく過ごせる

クラスにしよう！」（中1）

塩尻西中

井出 宏幸 先生

【人権教育の視点】自他の価値を尊重しようとする

意欲や態度を高める。



「君のいいところ見つけ隊」や「いじめま宣言!!」等の活動をしてきた生徒たち。文化祭も終えた頃、グループごと、友達のよさを付箋に書いて伝え合いました。互いに照れ笑いをしながら、自他の価値をかみしめました。

道徳

「半歩前へ」（小5）

教材名 『ぞうれっしゃがやってきた』 (岩波書店)

内容項目 D よりよく生きる喜び

南木曾小

津浦 和幸 先生

【人権教育の視点】正義、自由、平等などの実現という

理想に向かって行動しようとする意欲や態度を高める。



「ぞうれっしゃがやってきた」を、音楽会で演奏したり、国語で音読したりしてきた児童たち。あらためて「ぞう」に込められた思いを考えると、「戦争を止めるには、まず小さなけんかから止めないと…」と、自分自身の学校生活を見つめ直しました。